

## 水棲生物における漢方薬の使用事例のまとめ

○近藤 圭佑, 和田 夏海 (マリンワールド海の中道)

### Retrospective overview of the use of herbal medicine for marine animals

○Keisuke Kondo, Natsumi Wada (MARINE WORLD uminonakamichi)

[目的] 漢方薬を用いた東洋医学は“経験的医学”とも言われ、服薬後の効果の有無により薬剤が選抜されてきた歴史がある。そのため、東洋医学の発展には服薬に関する情報の集積が不可欠であり、水族医学に漢方薬を導入していくためには、その使用事例の共有と集積もまた欠かせない。当館では 2016 年以來、水棲生物に漢方薬を処方してきた。今回、その使用事例を回顧的に集約することで、情報の共有と集積を図り、野生動物医学のさらなる発展に寄与したい。

[材料および方法] 当館で 2016 年以降に漢方薬（生薬を用いたサプリメントも含む）を用いた治療を行った事例を抽出し、生物種、主訴、使用薬剤、投与期間、併用薬剤（西洋薬も含む）、主訴への効果の有無、有害な副作用の有無について検証した。

[結果と考察] これまで漢方薬を処方したことがある生物種はカマイルカ、バンドウイルカ、スナメリ、カリフォルニアアシカ、ケープペンギン、クエの 6 種であった。主訴としては消化器症状、代謝低下に伴う諸症状、貧血、脱臆、肝数値の上昇であり、処方したことがある漢方薬は六君子湯、小柴胡湯、補中益気湯、十全大補湯、加味逍遙散、桂枝茯苓丸、獣医散、田七人參の 8 種であった。のべ 30 例の処方のうち、最短の投与期間は 3 日、最長は 1703 日であった。主訴への効果があったのは、六君子湯 (7/10)、補中益気湯 (1/2)、田七人參 (2/2)、十全大補湯 (8/10)、獣医散 (4/4)、桂枝茯苓丸 (1/2) であり、主に補気作用を持つ薬で効果が認められる事例が多かった。また、有害な副作用が見られたのはカマイルカに獣医散を使用した 1 事例で、肝障害が認められた。今後も事例の集積を行い、水棲生物における効果的かつ安全な漢方薬の使用ができるようにしていきたい。